

探究活動「ミミズ・土の世界ってどんなところ？」

DAY②「友達とミミズの世界を描いてみよう」

子どもの姿



- 前回の探究活動では友達と土の色や土の中にあるものを考えながら一つの絵を描き上げることができた。
- 友達に自分の思いを伝えたり、受け入れたりしながら一つの形にすることは難しかったようだが、保育者の助言もありながら何とか最後まで描き上げた。
- 振り返りではお互いの作品をよく見ており、それぞれ良い所や素敵だなと感じたことを発表し合う姿が見られた。
- 土を塗りつぶすのではなく、トンネルを描いたり、部屋を描いたり、子どもなりに土の中のイメージを膨らませていた。

環境のデザイン

- OHP用紙
- 油性ペン
- 机（ビニールシートを敷く）× 4 台
- 保育室、床と机で活動
- 活動時間 9 0 分



対象児 4歳児3名、5歳児4名

- Aグループ 3名
- Bグループ 4名



問い「土の中ってどんなところ？」

「みんなが描いた土の中には何があるのかな？」

保育者「みんなが描いた土の中には何がいるのかな？」

子ども「ミミズ！」「アリもいる」

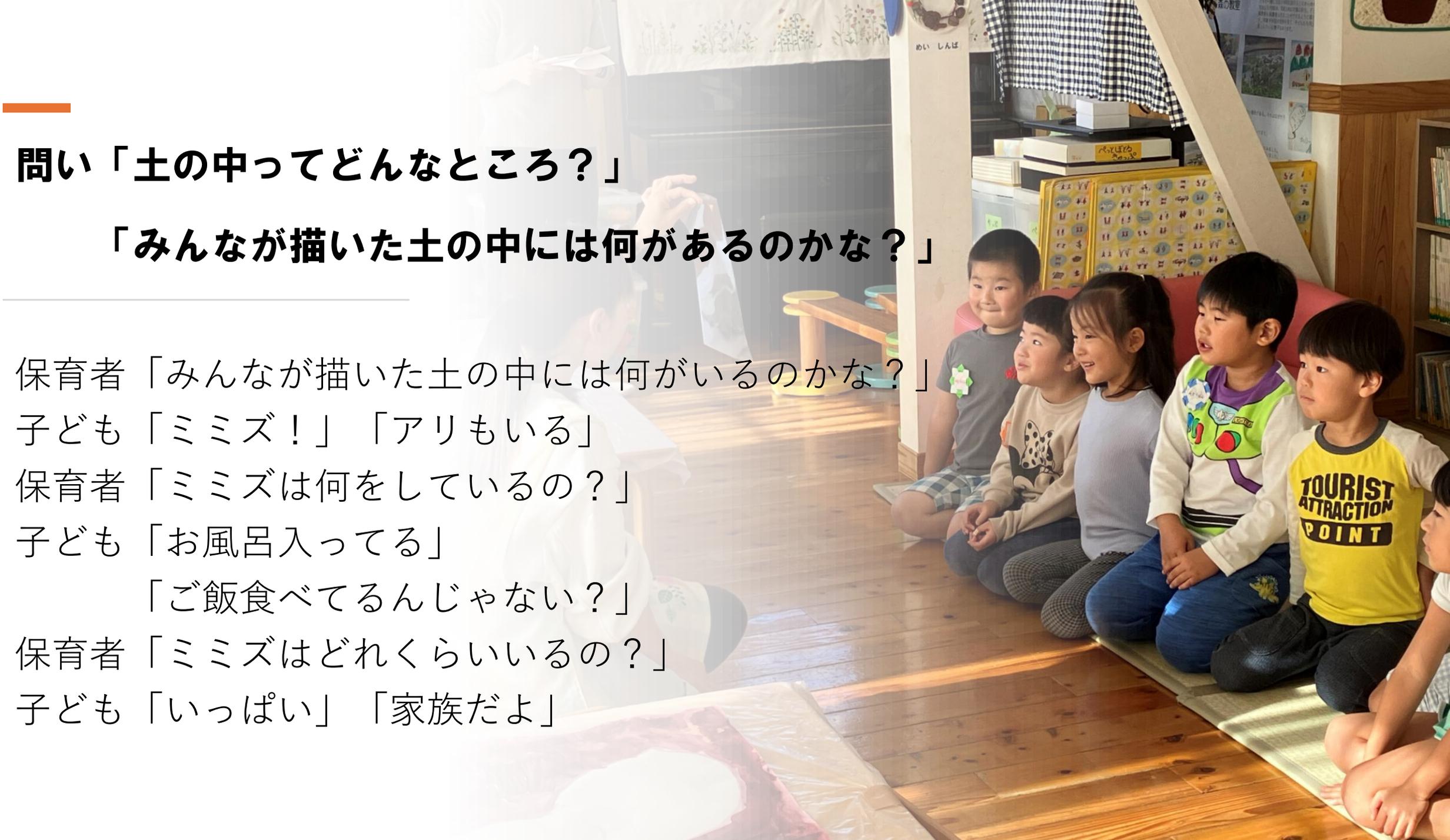
保育者「ミミズは何をしているの？」

子ども「お風呂入ってる」

「ご飯食べてるんじゃない？」

保育者「ミミズはどれくらいいるの？」

子ども「いっぱい」「家族だよ」



A グループ

「何を描こうか？」

「ミミズいっぱい描こうよ」

「じゃあここの部屋はどうする？」

「キッチンにする」

「だってエリンギみたいだから」

「いいよ」

5歳児がリードしながら、何を描くのか、何の部屋にするのかを話し合う。ペンの色はじっくりと吟味して試していた。





-
- 3人ともミミズを描くことに夢中。
 - カラフルなミミズを描く。
 - 5歳児はミミズの縁の部分と体の部分で色を分けて描いている。
 - 4歳児はにっこり顔のミミズを描く。
 - 5歳児の「描いたらはさみで切ろう」という声掛けでミミズを切り始める。

「どんなお風呂にする？どんな色にする？」

「紫！」

「いいよ！」

保育者「何で紫なの？」

「ブドウ味の水が出るんだよ」

「お風呂もブドウの飴でできてる」

4歳児はイメージがあるようだが、形にできず固まる。

見かねて5歳児がお風呂の形を描き、4歳児は塗り絵のようにして紫色に塗った。

4歳児の気持ちに気付いて優しく手を差し伸べる5歳児。





「〇〇ちゃんはキッチンを作ってくれる？」

4歳児はキッチンに何があるか考えて描こうとするが…。

「ミミズは土を食べるから、キッチンはなくていいや！」

「いいよ！じゃあそこはどうしようか？」

初めにキッチンを作ることを3人で決めたが、4歳児の話聞いて他の子はその思いを受け止める。更にどのようにしようか新たな方向性も考えていた。

描いた物をテープで貼る。

「この子はね、お母さん」

「リボンちゃんっていうの」

「この子はユニコーンちゃん」

「これはお母さん」

「唐揚げ君のテレビだよ」

「2階建てのベッド」

「こっちもベッドがある」

「枕もあるよ」

最後まで丁寧に作る3人。

ミミズにも1匹ずつ名前を付けた。



Bグループ

話し合いでは「こうしたい！」という自分の思いやイメージを出し合う姿が。

それぞれが好きなものを書いてみよう
と取り掛かる。

好きな色のペンを使って描く。

1つだけではなく、2つ、3つ。

真剣に、集中して描いている。





「太いミミズ描く、小峰にいたのは大きかったから」

「青のミミズもいるんだよ」

「(大きいミミズは)ステーキ食べ過ぎて太ったから大きい」
大きいミミズを動かして土にめり込ませるのが楽しそうな様子。

「(雨に濡れたら死んじゃうから) 雨嫌い」



「ミミズの寝るところがある」 「土を食べてるんだ」
ミミズを描いてからキッチンやベットも描く。

「〇〇君のキッチンは小さいから子ども用だね🎵」

「大きい子ばかりだから、小さい子がいいな～」

「リビングにテレビが2つあると狭いよ」

「（土の中には）もぐらもいる」
「（ミミズは）ずっとお風呂に入ってる」
「ちっちゃいミミズだったら100匹描けるよ」
「ズッキーニは？食べてるかもよ？」
「冷蔵庫を開けたらケーキが入ってた」
「てるてる坊主作った、寒いから雨は好きじゃない」

与羽輔

「テレビではミミズの結婚式をやってるよ」
「ミミズのプリン描いた、普通のプリンだよ」
「プリンとオムライスがミミズのお母さんが作った」
「コケが生えた石、これは宝なんだよ」
「キッチンにいるミミズはお兄ちゃん、冷蔵庫に何かあるか探してる。」



「青いミミズは先生」
「ステーキ食べ過ぎて太った」

「テレビではミミズの結婚式
やってるよ」

「てるてる坊主描いた」
「ミミズは雨だと困るし…」

「寝る場所も作らないと」

感じたままに描いては土の中に置いて楽しむ。





一通り描き終わった後、対話をしながら具体的にどうするのかを決める。

保育者「リビングってどういうところ？」

「テレビとかあるところ」

「ゆっくりできるところか」「じゃあどうしよう」

相談しながら、何をどこに置こうか決めていく。



振り返り

- 「まくらをいっぱい作った」
- 「まくらを切るのを頑張った」
- 「大きいのを小さく切るのを頑張った」
- 「ぶどうのお風呂がすごい」
- 「お布団がかっこいい」
- 「ミミズがいっぱいいてすごいね」



- 「てるてるぼうずを頑張った」
- 「寝る場所(ベット)を頑張った」
- 「緑のベットを頑張って作った」
- 「ミミズを作り過ぎたから減らした」
- 「冷蔵庫がすごい」
- 「テレビが可愛い」
- 「てるてる坊主が可愛い」



保育者の振り返り

- グループで取り組み方が全く違ったが、それぞれ友達と関わり合いながら想像力を膨らませ、一つのものを作り出すことができた。
- Aグループはミミズの関係性、Bグループはミミズの部屋の中をよく想像していた。
- 振り返りでは自分達が描いた絵を堂々と紹介していた。また、友達の絵について積極的に感想を発表する子が多かった。探究活動を通して自分の思いを発信する力が育っている。振り返りの時間をもう少し取りたかった。
- 完成までの紆余曲折あったが、この過程が大切だということ改めて感じた。

全体の振り返り

- お互い描いている物を意識しながら、とめどなくアイデアが出てきていた。
- 考える機会を積み重ねる中で、子ども達の発想する力、想像する力が育ってきている。
- 一人ひとりの強い思いがあって、グループ活動の良さを感じた。
- OHPフィルムの楽しさを知った。遊びの連続性というのは毎日やることではなく、振り返りを入れることでいつでも可能だということが分かった。
- 1年探究活動をやってきたことで型にはまらないような答えが出てきた。子ども達のマインドも変わってきたのではないだろうか。
- 一人ひとりストーリーがある。頼人はふざけているようにも見えたが、ミミズと天気のことを重視しており、どうしてもてるてる坊主を入れたかったようだ。このように一人ひとりのストーリーや、絵について話をするのも探究である。
- 振り返りでは良いところだけではなく、質問も募ってみると面白い。考え方の違いに気付き、そこからストーリーを深掘りして共有することができるのでは。
- 絵を飾る際にグループでの対話を一緒に掲載しても面白い。家族の人と絵について対話をしたら、また広がるのではないかな。
- 「人とミミズは違う」ということに気付いている。実際のミミズをもう一度見てみては。

Cグループ

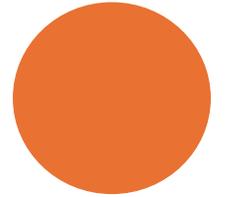
3名

「この透明の紙に描くんだよ」

「何から描く？」

「雪描きたい」

先日経験していた5歳児のリードのもと、
まずは雪作りから始まる。





「ミミズはここ？」

「あ、そこじゃない」

「あったかいところにいるんだ」

「そっか」

「じゃあ布団作ろうかな」

「こたつがいい」

「ううん、布団がいい」



「キッチンも作ろうよ」

「どこ？キッチン」

「ここだよ、テーブルが2つある所」

「じゃあ冷蔵庫作る」



「布団出来た！」 「ここでいい？」
「ミミズの赤ちゃんが寝てる」
「レインボーの冷蔵庫」
「どこに置こうかな～」
「ここだよ、ここ！」
「だってキッチンに冷蔵庫あるでしょ！」

3人で話し合いながら手を動かす。

最初は5歳児がリードしていたが、後半になると4歳児が率先して意見を言い、男児2人が「いいね」と応じる。

納得のいく世界が出来上がったようで満足気だった。

